

科目名	助産管理 (Midwifery Management)			科目コード	S116
単位数	2単位	選択区分	必修	時間数	30時間
区分	助産学実践領域	履修時期	通年	関連DP	助②⑤⑥
担当教員	今村 朋子、阿部 カナエ*、武智 恵子*、井上 明子、伊藤 美香				
授業概要	助産師の業務範囲や法的責任などの助産管理の基本知識と、様々な場における助産業務管理について教授する。様々な場での管理(産科病棟、院内助産、クリニック、助産所、災害時)については、オムニバス方式で各実践領域を専門とする教員が講義を担当する。さらに、発表やディスカッションを通して管理と実践のつながりや将来のキャリアプランについて、自らの考えを深める機会とする。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な場における助産業務管理や周産期の医療連携に関わる助産師の役割について説明できる。 2. 実習施設の助産実践システム調査をふまえて、多様な実践のあり方について管理の視点から理解を深めるとともに、母子を中心とした、よりよい実践の変革に向けて意見を述べる事ができる。 3. 助産業務ガイドラインに基づくリスクマネジメント判定を行い、安全管理について考察できる。 4. 助産所の開業計画を立案し、助産実践の場を自ら創造する意義について考える事ができる。 				

授業内容

回	項目	内容	担当者
1. 助産管理の基本			
1	助産業務管理の基本と実践	助産業務・助産管理の概念、助産と医療経済、法的義務、助産実践システム調査課題について	今村朋子
2. 病院、診療所における助産管理の実際と発展的活動			
2	総合周産期医療センターの役割とリスクマネジメント	周産期医療制度、総合周産期医療センターにおける助産師の役割、産科病棟管理、人材育成	阿部カナエ
3	クリニックの役割とリスクマネジメント	クリニックにおける助産師の役割、無痛分娩の管理、リスクマネジメント	(教育協力者) 今村朋子
4	院内助産システムの構築	院内助産システムとは 助産外来・院内助産の実際	(教育協力者) 今村朋子
5	災害時の助産活動	災害を想定した日常の訓練、被災地施設との連携、助産活動の実際	(教育協力者) 今村朋子
6～8	様々な助産実践システムの現状分析と今後の展望(発表とディスカッション)	各施設の助産実践システム調査発表 ・母子を中心とした助産実践システムとは ・ケアの変革に向けたチャレンジ	今村、井上、伊藤、他
9	助産業務ガイドラインに基づく事例分析(発表とディスカッション)	助産診断におけるリスクマネジメントの実際 助産業務ガイドラインの活用 医療連携と搬送の判断、転院・搬送時のケア	今村朋子
3. 助産所における助産管理			
10	助産所とは(※4月に実施)助産所の管理に関する法規	助産所の定義・分類・地域での位置づけ 助産所の開設と管理者の役割	今村朋子
11～12	助産所の管理運営の実際 地域における助産活動	安全管理と医療連携・施設管理 助産所経者に求められる姿勢 妊産婦管理の実際と地域母子保健活動	武智恵子
13	助産所開業に向けたビジョン	助産所開業計画の発表	武智・今村 井上
4. まとめ			
14	助産師活動の拡大に向けて	「母子と助産師の日」イベント参加 全国助産師との交流、1年の振り返り	今村
15	助産師としての将来ビジョン	助産師の卒業時の到達目標と到達度 助産師のキャリアプランとクリニカルラダー	今村・井上
成績評価方法	施設発表 50% (今村ほか)、ガイドライン 20% (今村)、開業計画 30% (武智・今村・井上)		
教科書	我部山キヨ子・毛利多恵子 「助産学講座 10 助産管理」(医学書院)		
参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・成田伸「助産師基礎教育テキスト 周産期における医療の質と安全」(日本看護協会出版) ・「助産所開業マニュアル改訂版」(日本助産師会出版) ・「助産業務ガイドライン」(日本助産師会出版) ・「助産師業務要覧 第2版」(日本看護協会出版) 		
授業時間外の学習について	実習施設の助産実践システムやガイドライン、開業計画などの発表準備については時間外の学習が必要となる。		
関連科目	101 助産学概論、106-109 助産診断技術学 I～IV、110 周産期ハイリスクケア論 117-119 助産学実習 I～III		
備考	・第13回の開業計画発表は、まつやま助産院にて実施する。		